

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

独立行政法人国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校

NO.	授業科目名	授業単位等		実務経験等	
		単位数	時間数	職種名	実務経験
1	共通基本技術 (看護過程の基礎)	1	30	看護師	病院での臨床経験
2	生活援助技術Ⅰ (コミュニケーション、感染予防、 活動・休息)	1	30	看護師	病院での臨床経験
3	生活援助技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	1	30	看護師	病院での臨床経験
4	生活援助技術Ⅲ (清潔)	1	30	看護師	病院での臨床経験
5	診療の補助技術	1	30	看護師	病院での臨床経験
6	臨床看護総論Ⅰ (主要症状別)	1	30	看護師	病院での臨床経験
7	臨床看護総論Ⅱ (治療・処置別)	1	30	看護師	病院での臨床経験
8	地域・在宅看護援助論Ⅱ (治療・処置別)	2	30	看護師	病院での臨床経験
	合計	9	240		

科目区分	専門分野	授業科目	共通基本技術 (看護過程の基礎)
講師名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次 第 2 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護援助の方法論である看護過程について学びます。ゴードンの機能的パターンを用いて対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する側面から）収集し看護の視点から統合して対象者の望み（意志）を共有しながらアセスメントする方法を学びます。		
目的： 対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する。 目標： 1. 看護過程の構成要素について説明できる。 2. 看護上の問題を明確にする過程が説明できる。 3. 個別性のある看護計画の立案方法が説明できる。 4. 看護過程の評価の視点が説明できる。 5. 看護記録について説明できる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	看護過程の展開とは 情報収集		講義
2	看護過程の展開とは アセスメントの枠組みと視点 情報の整理・解釈・統合		講義
3	事例展開 大腿骨頸部骨折 情報収集：情報の捉え方と振り分け		講義 グループワーク
4	情報の解釈と分析 領域 4 活動・運動		講義、グループワーク
5	情報の解釈・分析 領域 2 栄養・代謝 領域 3 排泄 情報の総合 看護診断に至る過程		講義、グループワーク
6	情報の解釈・分析 領域 6 認知・知覚 領域 7 自己知覚・自己概念		講義、グループワーク
7	問題の明確化 看護問題の種類・看護診断 関連図：病態関連図と関連要因図		講義、グループワーク
8	事例の看護問題の明確化		講義
9	看護上の問題の優先度 問題リスト		講義、グループワーク
10	看護計画立案 実施・評価 看護記録：SOAP 記録とは		講義、グループワーク
11	看護計画の実践（グループで立案した計画を実施）記録（実践場面の記録）		演習 グループワーク
12	評価 ・目標達成の判定 ・計画の追加・修正		講義 グループワーク
13	看護記録 ・看護記録の意義と目的 ・看護記録の法的位置づけ ・看護記録の構成 ・看護記録の種類 SOAP 法・フォーカスチャート 看護記録及び診療情報の取り扱い		講義
14	事例を用いたアセスメントの実際の続き		講義
15(45 分)	まとめ		講義
16(45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験（50 点）課題レポート（50 点） 評価基準参照		
テキスト	学研：看護過程に沿った対症看護 基礎と臨床がつながる疾患別看護過程 学研：疾患別看護過程の展開 医学書院：NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I		
参考図書	メディックメディア：看護がみえる ④看護過程の展開 メディックメディア：看護がみえる ⑤対象の理解 I		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅰ（コミュニケーション、環境調整、感染予防、活動・休息）
講師名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	看護の基本的な技術を学びます。技術の修得には、知識の定着とともに反復練習が必要になります。授業への積極的な参加と、自己学習時間を活用した練習を期待しています。		
目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する。 目標： 1. 看護技術の概念について理解することができる。 2. 看護技術を行う基礎となるコミュニケーション方法を理解することができる。 3. 基本的な感染予防行動が実施できる。 4. 基本的な環境調整の援助技術が実施できる。 5. 基本的な活動・休息の意義を理解し援助が実施できる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1. 技術の概念（安全、安楽、自立） 1) 看護技術とは 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術を適切に実践するための要素 2. 看護技術の提供と倫理的配慮 3. コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの基本原則と構成要素 3) 関係構築のためのコミュニケーション 4) コミュニケーションに必要な能力・態度		講義
2	4. 感染予防の技術 1) 感染防止の基礎知識 2) スタンダードプリコーション（1）手指衛生（2）個人防護用具（3）患者ケアに使用した器具 3) 感染経路別予防策（1）基礎知識（2）接触・飛沫・空気予防策（3）滅菌操作 4) 感染性廃棄物の取り扱い感染とその予防の基礎知識		講義
3	標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際 手指衛生、個人防護用具の着脱（技術確認）		演習
4	5. 環境調整技術 1) 人間と環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整（1）病室・病床の選択（2）温度・湿度（3）光と音（4）色彩（5）空気の清浄化とに（6）人的環境		講義
5	6. 療養環境について考えるー快適な環境とはー 1) ベッド周囲の環境整備（1）環境整備の目的（2）環境整備に必要な物品、環境整備の方法 2) 療養環境の環境測定		演習
6	7. 活動・休息援助技術 1) 基本的活動の援助（その 1）①基本的活動の基礎知識 ②体位 ③移動：体位変換		講義
7	2) 睡眠・休息の援助 ①睡眠制御のメカニズム ②睡眠障害のアセスメント 8. 病床を整えるための知識 1) マットレス・枕・リネンの条件 2) ベッドメイキング 3) リネン交換		講義
8～9	9. 環境調整技術とは 1) 病床環境を整える技術（1）快適な療養環境整備（2）安全な療養環境の整備（転倒・転落予防） 2) 病床を整える技術 （1）ベッドメイキング（技術確認）（2）リネン交換、リネンの取り扱い・方法		演習
10～11	（3）臥床患者のリネン交換 ①臥床患者のリネン交換の援助技術 ②体位変換：仰臥位から左右側臥位 ③安全な体位の調整		演習
12	臥床患者のリネン交換：技術チェック（45 分）		演習
13	10. 活動援助技術 1) 基本的活動の援助（その 2）移動：②歩行、③移乗・移送（車椅子・ストレッチャー）		講義
14～15	2) 車椅子移乗・移送（技術チェック）3) ストレッチャーへの移乗、ストレッチャー移送（技術確認）		演習
16（45 分）	終了試験		
評価方法	筆記試験（100 点） ※評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅱ		
参考図書	学研メディカル秀潤社：看護技術プラクティス メディックメディア：看護が見える vol.1 基礎看護技術		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)
講師名	専任教員	実務経験の有無	有(臨床での看護)
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第1学期
授業概要 *講師からの メッセージ	看護を実践するためには、対象となる人の観察とアセスメントが重要になります。 この授業では、対象となる人の身体を外側から測定する方法とその原理を身につけていきます。また、測定するときの配慮についても考え実践に活かしてほしいと思っています。		
目的：対象に必要な観察を行うための知識と観察技術を習得することができる。 目標：1. 主要な症状から病態のメカニズムを理解し、必要な情報収集と観察項目を導き出す思考過程を養うことができる。 2. 看護における観察の意義を理解し、五感を活用した問診・視診・触診・打診・聴診の知識と技術を習得することができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	フィジカルアセスメントの意義		講義
2	フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 聴診 6) 全体の概観		講義
3	バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識レベル 6) 計測の技術 7) 生理的変動因子		講義
4・5	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)、身体計測		演習
6	呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識・実際 1) 自覚症状 2) 他覚症状の視診 3) 胸部の視診・触診 4) 胸部の打診 5) 呼吸音の聴診		講義
7	循環器系のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識・実際 1) 自覚症状 2) 他覚症状の視診 3) 頸静脈の視診と頸静脈圧の測定 4) 胸部の触診 5) 心音の聴診		講義
8	胸部(呼吸器系・循環器系)のフィジカルアセスメント 1) 胸部の触診 2) 胸部の打診 3) 呼吸音聴診 4) 心音聴診		演習
9	腹部のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識・実際 1) 自覚症状 2) 他覚症状の視診 3) 腸蠕動音、血管雑音の聴診 4) 打診 5) 触診		講義・演習
10	筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識・実際 1) 自覚症状 2) 関節可動域の観察 3) 徒手筋力テスト(MMT)		講義
11	脳・神経系のフィジカルアセスメントの目的・基礎知識・実際 1) 自覚症状 2) 運動機能の評価 3) 感覚機能の評価法		講義
12	筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント 1) 意識レベルの評価 2) 関節可動域訓練 3) 徒手筋力テスト		演習
13・14	看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント(系統別フィジカルアセスメントの統合)		演習
15(45分)	技術試験		技術試験
16(45分)	筆記試験		
評価方法	筆記試験50% 技術試験50% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ メディックメディア：看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント		
参考図書	医学書院：フィジカルアセスメントガイドブック第2版 メヂカルフレンド社：はじめてのフィジカルアセスメント第2版		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅲ（清潔）
講師名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次・学期	1 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からの メッセージ	看護師は、疾病・障害など何らかの理由によって普段どおりの清潔行為や衣生活の維持が困難になった患者に、その人に適した方法を考え清潔の援助を行います。病態を考慮し、その人に即した方法を考えられるようになるために、援助の基本を学びましょう。		
科目目的：日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し、病気に罹患し療養している対象への清潔の援助方法についての知識・技術・態度を習得する。 科目目標：1. 日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し説明することができる。 2. 皮膚粘膜に関する解剖生理学的知識を活用しながら、対象の身体を清潔にする方法の原理原則に関する知識を習得する。 3. 原理原則に基づいて安全・安楽に清潔援助を行うことができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	清潔・衣生活の意義		講義
2	清潔援助の方法と選択 1) 身体への影響 2) 手浴・足浴・入浴介助・シャワー浴介助		講義
3・4	手浴・足浴（技術確認） ：ベッド上仰臥位の患者への手浴・足浴／端坐位保持が可能な患者への足浴		演習
5	身体各部分の清潔 ：整容（洗面、目・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り）／口腔ケア（歯磨き・義歯のケア） 洗髪（ドライシャンプー・ベッド上・洗髪車・洗髪台）		講義
6・7	身体各部分の清潔（技術確認） ：口腔ケア／洗髪（ベッド上）		演習
8	全身の保清 ：寝衣交換（点滴ドレーン等留置のある患者の寝衣交換方法含む） 全身清拭、陰部の保清（陰部洗浄）、おむつ交換		講義
9	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）の清潔援助 ：寝衣交換		演習
10・11	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置の無い）の清潔援助 ：全身清拭		演習
12	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）の清潔援助 ：陰部洗浄 ／ おむつ交換（陰部モデルを使用しての演習）		演習
13・14	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）の清潔援助 ：全身清拭 ／ 陰部洗浄 ／ おむつ交換 ／ 寝衣交換		演習
15（45 分）	技術試験：臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした 清潔援助		技術試験
16（45 分）	筆記試験		
評価方法	筆記試験 50％ 技術試験 50％ 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		
参考図書	学研メディカル秀潤社：看護技術プラクティス メディックメディア：看護が見える vol.1 基礎看護技術 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		
備 考			

科目区分	専門分野	授業科目	診療の補助技術
講師名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次・学期	1 年次 第 2 学期
授業概要 ＊講師からの メッセージ	限られた演習の時間を大切に活用するために、事前に手順等をしっかり読み込んでおくください。安全な物品の取り扱いに留意し、実際の患者に実施する思いで技術の習得を行いましょう。		
目的： 看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する。 目標：1. 薬物療法の意義・目的が理解する。 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物療法における看護の役割 1) 薬物療法における看護師と多職種との関連 2) 薬物療法における看護師の役割		講義
2	3. 薬物療法の基礎的知識 1) 薬に関連した法令 2) 薬物の種類 3) 薬剤の吸収・排泄のメカニズム (1) 吸収 (2) 分布 (3) 代謝 (4) 排泄 4) 薬理作用とその影響因子 (1) 薬理作用に影響を及ぼす要因		講義
3	4. 薬物療法における安全確保の技術 1) 誤薬防止の基礎知識と実際 2) 医療廃棄物の取り扱い 3) 薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬） 4) 主作用・副作用とその対応		講義
4	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 経口的与薬法（固形剤、粉末剤、液状剤） 2) 口腔内与薬法（舌下錠、バツカル錠、トローチ） 演習：経口的与薬法、口腔内与薬法（技術確認）		講義・演習
5	3) 直腸内与薬法（全身作用、局所作用） 4) 点鼻・点耳・点眼法・吸入・経皮的与薬法		講義
6	経皮・外用薬（点眼・貼付・軟膏塗布・直腸内）の投与の実際（技術確認）		演習
7	5) 注射法 注射薬の種類、注射実施上の事故防止と責任 (1) 皮下・皮内注射 (2) 筋肉内注射		講義
8	皮下注射の実際（注射訓練モデルを用いた演習）（技術確認）		演習
9	筋肉内注射の実際（注射訓練モデルを用いた演習）（技術確認）		演習
10	(3) 静脈内注射の基礎 ①静脈内注射の種類：静脈内注射 点滴静脈内注射 中心静脈カテーテル法 ②抗がん剤の人体への影響とその効果 抗がん剤の安全な取り扱い 薬剤の管理方法、ばく露予防策について		講義
11・12	点滴静脈内注射の手順と留意点		講義
13・14	点滴静脈内注射の実際（技術確認） ・薬剤の準備（アンプルからの吸い上げ、溶解薬剤のバイアルからの吸い上げ） ・翼状針を用いた点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理		演習
15	6. 輸血療法時の看護 1) 輸血とは 2) 輸血療法の適応 3) 血液型と交差適合試験 4) 輸血による副作用 5) 輸血時の観察と看護 6) 血液製剤の保管と管理		講義
16	終了試験（45 分）		
評価方法	筆記試験 90％ 課題レポート 10％ 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ		
参考図書	学研メディカル秀潤社：看護技術プラクティス メディックメディア：看護が見える vol.2 臨床看護技術		
備 考			

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅰ (主要症状別)
講師名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次・学期	1 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	症状の起こるメカニズムを振り返りながら、症状に対する看護を学んでいきます。 基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察、判断事項に加え、心理面への配慮についても学び、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思っています。		
科目目的：健康障害を持つ対象を理解し、対象のおかれている状態に応じた看護の役割と援助の方法について基礎的な能力を養う。 科目目標：1. 主要症状別看護に必要な解剖生理学や病理学で学んだ知識を統合し、根拠を踏まえ看護を理解する。 2. 主要症状が身体的側面だけでなく、精神・社会的側面に影響があることを理解する。 3. 症状を緩和するための看護技術を習得することができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 1) 発熱・低体温などの体温調整機能に関する症状を示す対象の看護		講義
2	2) 痛み症状を示す対象の看護 痛みのメカニズム、痛みのアセスメント、痛みのある患者の援助		講義
3	3) 不眠症状を示す対象の看護 (1)睡眠のメカニズム(2)睡眠障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム (3)身体ケアを通じてもたらされる安楽 ①リラクゼーション法 ②安楽に関連する症状（体温調節・疼痛）への援助：電法の技術（冷電法・温電法）		講義
4	電法の技術（冷電法・温電法）		演習（技術確認）
5	2. 循環に関連する症状を示す対象者への看護 1) 循環障害に関連する症状のメカニズム 2) 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3) 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 (1)血液循環を促進する援助 (2)末梢循環促進ケア (3)心臓の負荷を軽減する援助		講義
6	3. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 1) 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2) 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント		講義
7・8	3) 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（酸素療法、吸入） （排痰ケア、口腔・鼻腔内吸引）		講義
9	酸素療法を受ける患者の看護 ・中央配管方式による方法と酸素ボンベによる方法 ・酸素投与器具とその特徴（鼻カニューレ、簡易酸素マスク、ベンチュリーマスク、リザーバーバック付き高濃度酸素マスク）		演習（技術確認）
10	呼吸に関連する症状への援助（排痰ケア） ・体位ドレナージ（技術確認）・咳嗽介助（徒手の咳嗽介助）、ハフリング（技術確認） ・吸入加湿法（ネブライザー）		演習（技術確認）
11・12・13	口腔・鼻腔内吸引法		演習（技術確認）
14	技術チェック：口腔・鼻腔内吸引（45 分）		技術チェック
15	気管内吸引法		講義
16（45 分）	終了試験		
評価方法	筆記試験 100% 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論		
参考図書	メディックメディア：看護が見える vol.2 臨床看護技術 学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		
備 考			

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅱ (治療・処置別)
講師名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	1 年次 第 1 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	さまざまな病期にある患者の治療を支援できるように基本知識を学びます。また専門性のある処置に関する看護技術を学びます。基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察を行い、安全に配慮した手技を学びます。心理面への配慮についても、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思います。		
科目目的：看護実践の基礎となる治療・処置に関する知識と診療援助技術を習得する。 科目目標：1. 検査・治療・処置の意義および看護師の役割を理解する。 2. 検査・治療実施時の介助方法および検体の採取方法を習得する。 3. 創傷を管理する技術としての創傷処置・包帯法を習得する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	手術療法を受ける患者の看護 1) 術前の看護：術前の身体評価・術前オリエンテーション 2) 術中の看護：手術室看護師の役割、手術体位とその介助		講義
2	3) 術後の看護：術後合併症の予防と対応、術後疼痛管理、早期離床の援助		講義
3	リハビリテーションを受ける患者の看護		講義
4	放射線療法を受ける患者の看護 放射線の人体への影響とその効果 放射線照射時の看護と有害反応への対応		講義
5	終末期・看取りの看護		講義
6	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 創傷治癒過程・創傷処置・包帯の種類と巻き方		講義
7・8	創傷処置・包帯交換（技術確認） ガーゼ、フィルム材の交換（テープ・フィルム材のはがし方） 包帯法の実施（技術確認） 巻軸帯／布はく帯：三角巾・腹帯		演習
9・10	診察・身体侵襲を伴う検査や処置を受ける対象者への看護		講義
11	静脈血採血法 滅菌物の取り扱いと無菌操作法 個人防護具の扱いと感染性廃棄物の扱い		講義
12・13	静脈血採血の技術（モデル人形を用いた採血）（技術確認） ・シリンジを用いた採血法 ・翼状針付きホルダー採血		演習
14	医療機器の操作と管理：輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、 DC、人工呼吸器（ME による演習）		演習
15(45 分)	まとめ		講義
16(45 分)	終了試験		
評価方法	筆記試験（100 点） 評価基準参照		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [4] 臨床看護総論		
参考図書	学研：看護技術プラクティス		
備考	治療に関する他の科目の進捗状況により、学習効率を目的に講義の順序の変更の可能性があります		

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ (治療・処置別)
講 師 名	専任教員	実務経験の有無	有（臨床での看護）
単位数（時間）	2単位（30 時間）	開講年次・学期	2 年次 第 2 学期
授業概要 *講師からのメッセージ	「地域と暮らし」で知った地域の実情を踏まえて、実際に地域で働いている専門の講師とともに、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を一緒に考えていきましょう。		
目的：地域で生活しながら療養する人々とその家族を総合的に理解し、在宅療養を支える看護技術や医療ケアの基本を習得する。			
目標：１．在宅療養における薬物療法と服薬管理が必要な療養者に対する具体的支援方法を習得する。 ２．在宅療養における栄養管理が必要な療養者に対する具体的支援方法を習得する。 ３．在宅療養における排泄ケアが必要な療養者に対する具体的支援方法を習得する。 ４．在宅療養における呼吸管理が必要な療養者に対する具体的支援方法を習得する。 ５．難病療養者の事例を通して、対象や家族の生活と健康支援の方法を習得する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1. 与薬に関する支援技術 1) 薬物療法と服薬管理支援の目的・方法 2) 在宅服薬管理で取り扱うことの多い薬剤の与薬の注意点 3) 在宅持続皮下注射法 2. 創傷管理の支援技術 1) 褥瘡の予防とケア 2) スキンケアの予防とケア		講義
2	薬物療法と服薬管理の支援技術 1) インスリン自己注射法の支援技術（ペン型）		講義・演習
3	3. 排泄ケアの支援技術 1) ストーマのケア（人工肛門・人工膀胱） 2) 自己導尿・膀胱留置カテーテル 3) 腹膜透析		講義
4	排泄ケアの支援技術・創傷管理の支援技術 1) ストーマのケア 2) 褥瘡の予防とケア（体位）		演習
5	4. 栄養管理支援技術 1) 在宅経管栄養法（胃瘻） 2) 在宅中心静脈栄養法		講義
6	5. 呼吸管理の支援技術 1) 在宅酸素療法 2) 在宅人工呼吸療法（侵襲的・非侵襲的） 3) 排痰法、気管内吸引		講義
7	6. 看護過程：在宅で療養する慢性疾患の事例を通して、対象や家族の生活と健康支援の方法（事例：慢性閉塞性肺疾患） 1) 不可逆的に進行する病状進行に伴う慢性閉塞性肺疾患の療養者の特徴 2) 療養者・家族の希望する暮らしや医療・介護 3) 在宅療養者と家族の療養生活における課題		講義
8	(1) データベース、アセスメントシート①		講義・演習
9	(2) アセスメントシート②		講義・演習
10	(3) アセスメントシート③		講義・演習
11	(4) アセスメントシート④		講義・演習
12・13	(5) 計画立案		講義・演習
14	4) 生活上の問題に対する看護介入 (1) 7～11 回目の内容をもとに、訪問場面のシミュレーション ①訪問マナー、②コミュニケーションと情報収集、③呼吸管理、 ④在宅酸素療法の取り扱い、⑤日常生活の不活発化		演習
15	まとめ（45 分）、終了試験（45 分）		
評価方法	課題レポート 50％ 筆記試験 50％ 評価基準参照		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域在宅看護の実践（医学書院） 根拠がわかる在宅看護技術：メディカルフレンド社		
参考図書			
備考	既習関連科目：地域・在宅看護概論、地域・在宅看護援助論Ⅰ		